



ひらどだい

令和4年度 学校だより 7月号 横浜市立平戸台小学校学校長 丹波 悟亮



子どもらしさ

校長 丹波 悟亮

水泳学習が始まりました。プールサイドで準備体操をし、マスクを外して、シャワーを浴びます。シャワーの水は、とても冷たく、子どもたちは、「キャーキャー」言いながら、シャワーを浴びています。「冷たい」と言いながらどこかうれしそうな様子があります。



まだまだ新型コロナウイルスの感染防止を考えながらの水泳指導ですが、マスクをすることに慣れた子どもたちにとって、シャワーの下を通ると、マスクを外して思い切り学習できる時間のスタートの合図の様です。マスクをしていない子の顔を見ると表情豊かに、水泳学習を楽しんでいます。いつもは見るできない、マスクの下の鼻や口は、なんて素敵なんだと改めて感じます。



5年生は、田植えをしました。靴下をはいて、どろどろの田んぼの中に入ると、足を取られて転びそうになりながら、土の感触を楽しんでいました。土にまみれることが、子どもの本能を呼び起こすかのように、目がキラキラしています。

休み時間、校長室の前の花壇で、1年生の子が、じーっと土を眺めています。何をしているのか尋ねると、その子はダンゴムシを見ていると答えてくれました。ダンゴムシに夢中になれる子、ダンゴムシを見ることで何か得をすとか、頭がよくなるとか、お金持ちになれるとかそんな考えは少しもありません。ただダンゴムシを見たいのです。それが楽しいのです。

子どもは、大人になるための準備期間ではなく、子どもの時代を思い切り楽しんで成長します。子どもたちが輝いている瞬間に立ち会えるのは、教師にとって、とてもうれしい瞬間です。今という瞬間を精一杯生きて、平戸台小学校の生活を楽しんでほしいです。